

## &lt;全体分析&gt;

試験時間	教・工・応用生物科学部 1~5	1科目で120分
	医学部 1~4	2科目で120分

## 解答形式

選択式，記述式，計算，論述式

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

問題の分量は昨年並みであるが、今年は導出過程を書かせる問題はなくなり(昨年は1題)、論述問題が3題(昨年は2題)あった。計算問題は結果を2桁で示すものが7題と、昨年の16題に比べて大幅に減少した。また、昨年まで見られた“正誤の判断がつきにくい”正誤問題もなくなり、難易度は下がった。

## その他トピックス

ほとんどの問題は教科書にも記載のある典型的な知識・解法を要するものであった。その中では、反応式が書きにくい大問2の間3・問4、エステル化の平衡時の物質量の増減を答える大問3の間2(4)、ピニロンの合成に必要なホルムアルデヒド水溶液の質量を求める大問4の間3、アミノ酸の分離に関する大問4の間7(2)などが比較的難しく、ここを得点できたかどうか合否の分かれ目になると思われる。全体として合格のためにはかなりの高得点が必要となるだろう。なお、題意が不明瞭な問題が複数見受けられた。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述式 計算 論述式	化学結合 物質	化学基礎 化学	原子の構造，同位体，同素体， $\beta$ 壊変と半減期 【論述】石炭に含まれる $^{14}\text{C}$ が環境中に比べて少ない理由(40字程度)	標準
2	選択式 記述式 計算	無機化学 酸化・還元 溶解度積	化学	陽イオンの定性分析， $\text{H}_2\text{S}$ の電離平衡，溶解度積 問3 化学反応式を示せとあるが、イオン反応式が妥当と思われる。 問4 複数の反応が考えられる。解答例ではその一例を示した。	標準
3	選択式 記述式	有機化合物	化学	アミド $\text{C}_{14}\text{H}_{11}\text{NO}_3$ の加水分解と抽出分離，検出反応 安息香酸メチルの合成実験と平衡時の物質変化 問1(1) 有機化合物を構造式で記す必要があり、解答欄が小さすぎた。 問2(4) 文中の「効率」が何を示すのかが不明瞭である。	標準
4	選択式 記述式 計算 論述式	高分子化合物	化学	各種高分子化合物の製法と性質，反応量の計算 アミノ酸の等電点と分離操作，イオン交換樹脂 【論述】ピニロンと綿が吸湿性を示す構造上の理由(30字程度) 【論述】陽イオン交換樹脂を用いてリシン・グルタミン酸・グリシンを分離できる理由(幅104mm×5行程度)	標準
5	選択式 記述式 計算	無機化学 物質	化学基礎 化学	銅および鉄の性質，塩素の実験室的製法と反応量計算 塩素の性質	やや易

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

昨年と今年の比較でもわかるように、岐阜大学の化学は年度によって出題形式や難易度にばらつきがあり、今年度の問題のような平易な問題ばかりを演習していると、本試験において慌てることになりかねない。制限時間内に易しい問題から確実に解答することが重要である。近年あまり出題されていないが、念のための対策として描図・グラフを用いた問題や、論述を含んだ発展問題も演習しておこう。